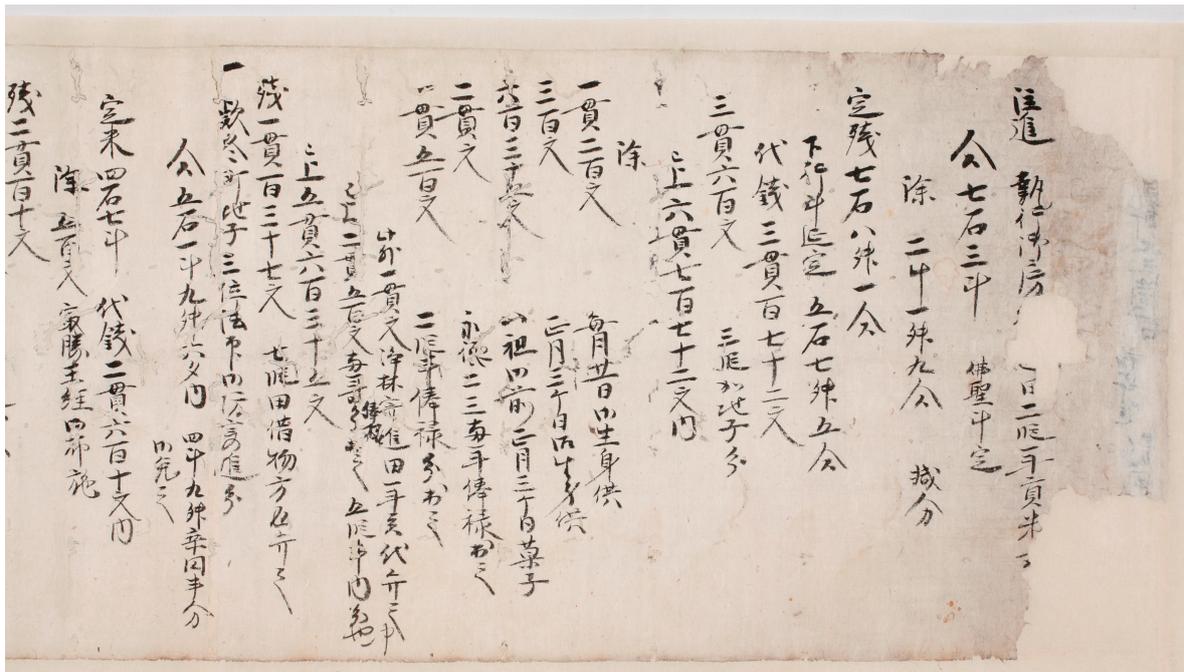




総合資料館だより

2013. 1. 1 No. 174

東寺百合文書展を近く開催



東寺百合文書手函46号 永徳3年(1383)12月 「執行(しゅぎょう)兵部卿栄济寄進田等年貢算用状」

お正月を迎えて、東寺ではさまざまな儀式や行事がおこなわれます。

写真の文書は、かつて栄济という僧侶より寄進された土地から得られた年貢の用途について記した帳簿です。そのなかに「正月三ケ日御生身供」とか「八祖御前正月三ケ日菓子」といったお正月の儀式にかかわる文言がありますが、儀式の様子そのものではなく、儀式のために支払われた金額が記されています。

東寺百合文書はほかの国宝とは少し違って、あまり華やかなものではありません。年貢の会計、僧侶の会議の記録、訴訟のなかでやり取りされた文書、財源となる土地の権利を証するための文書など、寺院の日常運営を支える、どちらかというと裏方の文書が膨大に集まったものです。

反対に言えば、そのような文書であるからこそ、書かれていることをつなぎあわせることで当時の様子が浮かび上がってくるのです。

(東寺百合文書展を開催いたします。詳細は3ページを御覧下さい。)

目次	東寺百合文書展を近く開催	1
	知事年頭あいさつ	2
	東寺百合文書展	3
	百合文書第10巻刊行紹介	3
	文献課の窓から	4
	平成24年度「歴史資料解説講座」のご案内	6
	最近の収集資料から(平成24年9月~11月)	7
	友の会事務局から、日誌、利用案内	8

京都の持つ「力」を生かし、「オール京都」で明日を切り拓こう

京都府知事 山田 啓二

府民の皆様、あけましておめでとうございます。

昨年は、ロンドンオリンピックでの京都府ゆかりの選手の活躍や、京都大学 山中伸弥教授のノーベル賞受賞など、府民にとって大変誇らしい出来事のあった年でありました。その一方で、痛ましい交通事故の発生や南部地域での豪雨被害、停滞する経済と厳しい雇用環境、生活保護受給世帯の増加、原子力発電所の安全性をめぐる問題や節電対策など、多くの課題が生じた年でもありました。

昨年の衆議院議員選挙では、エネルギー問題、消費税増税問題、TPP交渉参加問題などを巡って国論が二つに割れ、また領土問題など「対立」が目立った年でもありました。だからこそ、今年は「和をもって貴しとなす」、この言葉を実践する年にしたいと思います。困難な課題が多く、難しい判断が求められますが、巳年となる今年は、蛇行することはあっても、着実に前に進んで行きたいものです。そのために、私どもはこれまで以上に「熟議」し、その上で「判断」し、みんなが心を合わせ、困難に向かって「行動」していかなければなりません。

幸い、京都には、さまざまな機関や団体、そして府民の皆様が連携し、協力して大きな力を発揮するという「オール京都」の風土があります。この「オール京都」による取り組みは、昨年も「古典の日」の法律制定や、「和食」の世界無形文化遺産登録に向けた活動、「京都産業育成コンソーシアム」による中小企業支援、高齢者の方々が住み慣れた地域で安心して暮らせるようにするための「京都式地域包括ケア」など、すでに多くの分野に及んでいます。

また、地域に暮らす皆様が協働して地域づくりに取り組む「地域力再生プロジェクト」は、この6年間で3,000件を上回り、身近な道路などの改善を府民の皆様の提案により行う「府民公募型安心・安全整備事業」は、この4年間で4,500件にも上るなど、府民の皆様の協力によって地域を豊かにする取り組みが進められました。

府民の皆様お一人お一人が、夢と希望を抱き、生きがいを持って暮らせるような京都をつくっていくためには、こうした取り組みを、府政運営の三つの基本方向である「府民安心の再構築」、「共生社会の実現」、「京都力の発揮」にそって活かしていくことが必要です。

京都には、伝統・文化の力やブランド力、人材やものづくり産業、学術研究の蓄積などの未来を創造する力といった比類なき「力」があります。本年3月には、京都縦貫自動車道の沓掛・大山崎間が開通し、26年度には全線開通を迎えるとともに、北近畿タンゴ鉄道の再生やJR奈良線の環境整備を進めることで、府民の皆様の力をさらに結集できる条件が整ってきます。

日本全体が大きな構造変化に直面し、未来への道筋を見いだせない今、京都の持つ「力」を存分に発揮するためにも、今年の合い言葉は「オール京都」でいきませんか。

この一年の、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

平成24年度 東寺百合文書展 - 原本と翻刻で見る古文書の世界 -のご案内

会 期	平成25年2月23日(土)から3月17日(日) (3月13日は休館) 午前9時から午後4時30分	総合資料館がすすめている東寺百合文書の翻刻事業は、平成16年3月に第1巻を刊行、本年度は第10巻を刊行してひとつの到達点となりました。翻刻は文書の利用や普及にとっても大切なものですが、歴史学の研究者以外の一般の方にはあまり手にとっていただけないものかもしれません。そこで、今回の展示では、百合文書原本と翻刻出版物とを対比させて、翻刻の「作法」をわかりやすく説明しつつ、見て面白い古文書の入門となるような内容にいたします。
会 場	京都府立総合資料館 2階展示室	
列品解説 (事前申し込み不要)	3月2日(土)午後2時から(予定)	

東寺百合文書第10巻を刊行

当館は、所蔵している東寺百合文書(国宝)の翻刻出版事業をおこなっており、このたび、第10巻を刊行しました。

江戸時代以来文書が納められていた箱には、カタカナで「イ函」「ロ函」「ハ函」…、ひらがなで「い函」「ろ函」「は函」…のように名前がつけられていました。当館では、片仮名の箱に納められていた文書について、イロハ…の順で翻刻を進めています。第10巻には「チ函」の42号から114号までの73点を収めました。これらの文書の年代は永徳2年(1382)から享徳3年(1454)にわたっています。

第8巻には290点、第9巻には205点の文書を収めていましたが、今回文書の点数が少ないのは、「前公文所豊前明済跡借物注文」(応永20年)や「公方御成借錢返弁算用状」(永享10年)、「十分一方算用状」(宝徳2年など)のような長い帳簿類が含まれているためです。

永享2年、室町幕府第六代将軍足利義教が東寺を訪れました。これはちょっと立ち寄る、というようなものではなかったらしく、東寺は500貫文を超える莫大な費用をかけて準備を調えます。といってもそれだけのお金は手元になく、外から借りてきました。その返済の記録が上記の永享10年の「公方御成借錢返弁算用状」です。何年にもわたり、供僧に配分されるさまざまな供料の20%なり10%なりを徴収して順調に返済をすすめていることがわかります。ただ、翌永享11年には義教がまた東寺へ御成ということで、せっかく借金を減らしていたのに、あらためて550貫文もの借金を背負うこととなります……

ご購入については、お近くの書店または(株)思文閣出版(電話 075-751-1781)にお問い合わせください。

■第10巻の概要

書名 「東寺百合文書 十」
内容 チ函42号から114号まで73点
規格 A5判
頁数 476頁
定価 9,500円(本体価格)
発行者 (株)思文閣出版
発行日 平成24年10月1日

第11巻以降の刊行スケジュールについてお知らせ

『東寺百合文書』はこれまで年一回刊行してきましたが、新総合資料館(仮称)の開館に向けての準備などによりスケジュールを変更させていただくことになりました。第11巻は平成27年度に刊行する予定です。

マルコ・ポーロを凌ぐ旅行家 円仁 — 海外研究者による古典籍の再評価 —

海外からの日本研究

昨年『本棚の中のニッポン 海外の日本図書館と日本研究』(江上敏哲著)という本が出版されました。この本は海外での日本研究の实情や問題点を指摘し、日本国内からの支援のあり方を示唆しています。著者は海外の日本研究者が日本国内にある資料を探し出すことの困難さを説明し、この状況を改善することの必要性を述べています。そして、この改善の成否は日本自身に跳ね返ってくる問題であると訴えています。

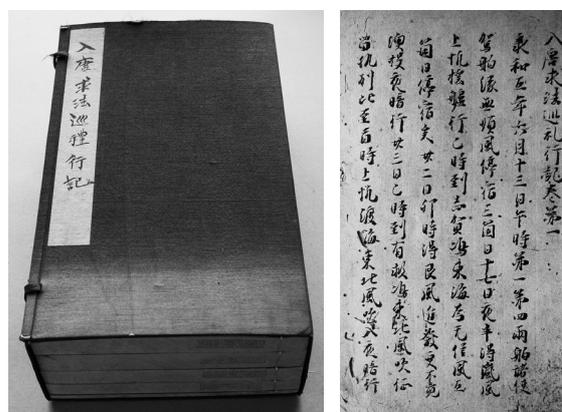
情報通信網が発達した今日でさえ、海外研究者の日本研究はさまざまな困難をともなうようですが、現在よりはるかに困難な状況の昭和初期に日本研究に取り組み功績を残した人物がいます。その人の名は、エドウィン・O・ライシャワー(1910-1990)といいます。

ライシャワーはアメリカにおける日本研究の第一人者であり、ハーバード燕京研究所(アメリカにおける東アジア研究の拠点)所長、駐日アメリカ大使などを歴任した人物です。彼は宣教師カール・ライシャワーの次男として東京で生まれ、16歳まで日本で過ごしました。帰国後ハーバード大学で日本と中国の文化や言語を学び、フランス留学を経て、東京帝国大学、京都帝国大学などで日本についての研究を深めます。1939年にハーバード大学に戻り教鞭をとりますが、太平洋戦争が始まるとその経歴からアメリカの対日戦略に関わることとなります。ケネディ政権下の1961年には駐日大使として再来日します。1966年の大使退任後はハーバード大学に戻り日本や東洋研究に多大な貢献をしました。

さてライシャワーの研究によってその名が世界に知られることになったのが、天台宗を開いた最澄の弟子、円仁(圓仁/慈覚大師)(794-864)です。彼は円仁を、『東方見聞録』の口伝者マルコ・ポーロや『大唐西域記』を著し西遊記のモデルにもなった玄奘三蔵に匹敵、或いはそれ以上の旅行家、そして「世界史上最初の偉大な日記作家」として世界に紹介しました。

『入唐求法巡禮行記』の再評価

円仁は866年、日本で最初に大師の諡号を贈られ慈覚大師となります。最澄が伝教大師を贈られたのもこの時であり、このことから円仁が宗教家として高い評価を受けていたことがわかります。しかし、円仁が残した『入唐求法巡禮行記(にっとうくほうじゅんれいこうき)』が広く再評価されるのは20世紀になってからです。漢学者岡田正之によって歴史に埋もれていた円仁の『入唐求法巡禮行記』の研究が進められます。1926年には東寺観智院で所蔵されていた『入唐求法巡禮行記』(写本)の影印本が岡田の解説編をともない出版されます。この影印本は300部限定の希少な出版物となっています。なお、当館では出版社の東洋文庫から寄贈されたものを所蔵しています。



この影印本を「原典研究を志すまじめな学徒にとってはかりしれない貢献」と評して岡田に続いたのがライシャワーでした。戦争の影響で構想から約20年の歳月を要したものの、1955年、「入唐求法巡禮行記」研究の成果として、翻訳本“Ennin's Diary The Record of a Pilgrimage to China in Search of the Law”とその解説本“Ennin's Travels in T'ang China”が姉妹本としてアメリカRonald Press Co.から出版されます。

ライシャワーの翻訳作業で興味深いのは、円仁という日本人が書いた書物ではあるものの、原文が漢文であったため、日本語を介さず直接、古典中国語(漢文)を英語にするという作業だったことです。この作業は彼が日本と日本史に対して深い知識を備えていたこともあり的確に行われました。

『世界史上の円仁 唐代中国への旅』

ここで簡単に『入唐求法巡禮行記』に書かれている円仁の入唐(838年)から帰朝(847年)までの約10年間を説明します。円仁は遣唐使の一員として唐へ渡りました。円仁は入唐後、仏教の教義を探求するため、大陸における聖地天台山への巡礼を願い出ますが唐側の許可は下りませんでした。そこで円仁は唐の国禁を破り、薄氷を踏む場面に幾度となく遭遇しながらも唐での滞在を続けます。天台山への巡礼は実現しませんでした。別の聖地五台山や都・長安に足跡を残し、役人だけでなく市井の人々との関わりや日常生活についても多くの記録を残しました。また長安滞在中に武宗帝による「会昌(かいしょう)の廃仏」と言われる仏教弾圧に遭遇し、迫害を受けますが、これが契機となり念願の帰国の途につきまます。この間、在唐の新羅人の支援などもあり円仁は多数の経典を日本に持ち帰ることに成功し、日本仏教の発展に大きく貢献しました。ライシャワーはこの円仁の記録を「中国の生活様式に関する最初の綿密な記録」と評するとともに、「会昌の廃仏」に関する記述の一部は「標準的な歴史書からは完全に削除された」記録と位置づけその存在価値を高く評価しています。

さて、解説本として出版された“Ennin's Travels in T'ang China(邦訳:『世界史上の円仁 唐代中国への旅』)”は、「続日本後紀」など、日本・唐・新羅の関連資料を補完資料に用いて円仁の行程と当時の東アジア情勢を詳述しています。この本はフランス語、ドイツ語に翻訳され、円仁の功績はヨーロッパにおいても知られるところとなりました。日本では1963年、田村完誓の訳により実業之日本社から出版され、学術的な内容とあわせて艱難辛苦を克服していく円仁を知ることができます。なお、1980年代以降、他社からも邦訳本が出版されていますが、当館では実業之日本社の初版を所蔵しています。

国際的な研究支援

ところで、当館では多数の古典籍を所蔵し、その中には研究者によって一定の評価を得るに至っているものもあります。しかし、一方でライシャワーと『入唐求法巡禮行記』のつながりのように私たち日本人がその価値を見過ごし、海外からの視点で研究されることで再評価されるものもあるかもしれません。新総合資料館の開館とともに国際京都学センターが始動すれば、当館資料が海外の研究者に利用される機会も今以上に増えると予想されます。これは、その研究者にとどまらず、成果の発表等を通じて日本や京都の国際的理解を深めることにつながります。もちろん、海外だけでなく府内、国内の皆さまの利用による新たな研究成果も期待されることです。そのため、当館では今後も資料の収集・保存に努めるとともに、研究やご相談に対する的確な資料提供ができるよう研鑽に努めてまいります。

(文献課 若林 正博)

<参考資料>

- ・『円仁』佐伯有清著 吉川弘文館 1989
 - ・『国史大辞典』吉川弘文館 1980
 - ・『世界史上の円仁 唐代中国への旅』E・O・ライシャワー著 田村完誓訳 実業之日本社 1963
 - ・『天皇皇族実録 12 清和天皇』藤井譲治ほか監修 ゆまに書房 2007
 - ・『入唐求法巡禮行記 4巻附解説』円仁著 石田幹之助編 岡田正之解説 東洋文庫 1926
 - ・『本棚の中のニッポン 海外の日本図書館と日本研究』江上敏哲著 笠間書院 2012
- (小中学生の方には)
- ・『慈覚大師円仁(えんにん)』成島行雄作 蛭田充画 京都新聞社 1994

平成24年度「歴史資料解読講座」のご案内

当館では初心者の方を対象とした「古文書入門教室」を毎年開催し、読み方などを中心に古文書に関する基礎知識について講義していますが、受講された多くの皆様からさらに深い内容を盛り込んだ講座のご要望をいただき、今年度から新たに「歴史資料解読講座」を開催いたします。

古文書や歴史資料を読み解き活用するという観点から、文字だけでなく、紙・墨・筆・印なども含めた解読を目指します。

「古文書に書いてある文字は何とかわかるが、字づらに表れていない情報まではわからない」とか、「古文書は読んだことがあるが、歴史を語る資料としての使い方がわからない」…。そんな方を対象に古文書から歴史を読み解くコツをお伝えします。

平成24年度「歴史資料解読講座」

回	月 日	タイトル	講 師
1	平成25年3月5日(火)	「明治維新後の元旗本天野家と旧領村 － 森島家に残る書状から － 」	島津 良子氏 (奈良女子大学非常勤講師)
2	3月6日(水)	「古代・中世文書に見える印」	土橋 誠 (総合資料館職員)
3	3月7日(木)	「東寺百合文書の『つかいかた』」	岡本 隆明 (総合資料館職員)

(各回とも)

〔 時 間 〕 14:00～16:00

〔 会 場 〕 **京都府立大学 合同講義室棟3階 第3講義室** (京都市左京区下鴨半木町)

〔 定 員 〕 200名

〔 受講料 〕 **無 料** (当日、レジュメを配付)

***** お問合せ先・お申込みについて *****

- お問合せ先 京都府立総合資料館 歴史資料課
〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4
(TEL 075-723-4834 FAX 075-791-9466)
- お申込みについて 事前申込みは不要です。当日、会場への先着順となります。
満席の場合は入場をお断りすることがありますので、あらかじめご了承ください。

※会場には一般向け駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。
(特にご事情のある方は、あらかじめご連絡ください)

- ・ この「歴史資料解読講座」については、当館ホームページ(随時)、当館メルマガ、府民だより(予定)等で順次ご案内いたします。
- ・ また、地域に残る古文書などの資料の解読、整理取扱いなどの講習のご要望があれば、職員が出張して行いますので、ご希望の方はお問合せください。



最近の収集資料から（平成24年9月～11月）



◆図書資料

〈京都〉

松尾寺蔵「国宝・絵画」のなぞ NHK大河ドラマ「平清盛」に因んで 松尾心空著 [松尾寺] 2012 29p 寄贈

地図と写真から見える!京の都歴史を愉しむ! 川端洋之著 西東社 2012 223p

図説丹波八木の歴史 第1巻 八木町史編集委員会編 京都府南丹市 2012 215,17p

不一 新島八重の遺したもの 岩澤信千代著 アイミライ 2012 291p

山階 創立140周年記念誌 山階小学校創立140周年記念事業実行委員会編刊 2012 110p 寄贈

洛南地域の変貌 設立六十周年記念誌 京都市洛南土地改良区[編刊] 2012 141p

京都文化ベンチャーコンペティション 2007-2011 文化の未来あつまりました 京都文化ベンチャーコンペティション実行委員会[編刊] [2012] 21p

京ことばとその周辺 泉文明著 晃洋書房 2012 4,230p

〈人文〉

図書学入門 藤森馨著 成文堂 2012 5,156p

大東急記念文庫善本叢刊 中古中世篇 別巻2[伊呂波字類抄 第2巻] 築島裕[ほか]編修委員 五島美術館大東急記念文庫 汲古書院(発売) 2012 660p

現古辞典 現代語から古語を引く 古橋信孝・鈴木泰著 河出書房新社 2012 348p

日清戦争写真圖 A PHOTOGRAPHIC-ALBUM OF THE JAPAN-CHINA WAR 全3巻 博文堂 1894-1895 内容: PART1 Corea and Manchuria PART2 The-kinchow peninsula PART3 Wei-hai wei 寄贈

大坂の陣と大坂城・四天王寺・住吉大社の建築

世界遺産をつくった大工棟梁・中井大和守の仕事 (II) 谷直樹・深田智恵子編 大阪市立住まいのミュージアム(大阪くらしの今昔館) 2012 91p

日本地図史 金田章裕・上杉和央著 吉川弘文館 2012 10,380,14p

勝川春章と天明期の浮世絵美人画 内藤正人著 東京大学出版会 2012 13,418,59p

日本仏教版画史論考 内田啓一著 法藏館 2011 8,347,5p 図版16p

珊瑚 宝石珊瑚をめぐる文化と歴史 岩崎朱実・岩崎望編著 東海大学出版会 2011 129p

〈官庁〉

日本の将来推計人口 平成24年1月推計 国立社会保障・人口問題研究所編刊 2012 371p 寄贈

小売物価統計調査年報 平成23年 総務省統計局編刊 2012 35,770p 寄贈

わが国独身層の結婚観と家族観 国立社会保障・人口問題研究所編刊 2012 304p 寄贈

病院概要 平成24年度 京都府立与謝の海病院[編刊] [2012] 44p

京都府観光入込客調査報告書 平成23年 京都府商工労働観光部観光課編刊 2012 15p

第2期京都市伝統産業活性化推進計画 「京もの」のある暮らし 京都市産業観光局商工部伝統産業課[編刊] 2012 59p 寄贈

わたしたちのまち宮津市 第4版 宮津市学校教育研究会ふるさと読本編集委員会編 宮津市教育委員会 2012 91p 寄贈

■文書資料(新しく公開する資料)

藤木家文書 京都市左京区新柳馬場通仁王門下ル駒薬師町(明治以降は菊鉾町)の美濃屋藤木家の旧蔵文書。藤木家は駒薬師町の町年寄、上京33番組添年寄のほか衛生委員・税務調査委員等も勤めた。天保9年(1838)の駒薬師町の町中屋敷絵図が珍しい。また、下御霊社等の神仏に対する寄附金や安政年間の加茂川渡の冥加金の受取証、家内の祝儀に関する礼状のやりとり等がある。その他、藤木家との関係が不明であるが、海老名九左衛門宛に出された囲碁棋士井上因碩の免状や本因坊秀和の書状、水戸藩主水戸治紀の進上目録も含まれる。天保9年(1838)～大正4年(1915)。78点。寄贈

幡枝村文書 幡枝村(現 京都市左京区岩倉)の庄屋九郎左衛門家(古村家)に伝来した文書。幡枝村は近世は禁裏・安井門跡(蓮華光院)・中院家・大炊御門家・竹田慶安(医師)・東寺・法然院と7領主が分割知行している村で、年貢帳や年貢勘定目録等から、その状況を垣間見ることができる。その他、明和3年(1766)同7年(1770)の勘当願書、天明4年(1784)の中院殿御用人馬駄賃帳等がある。正徳3年(1713)～明治3年(1870)。41点。寄贈

角田家文書 幕末から明治維新にかけて一時期、肥後熊本藩の御用をつとめた筒井屋角田家に伝来した文書。角田家は滋賀県筒井村(現彦根市)出身で幕末期に上京して東山三条辺りで筒井屋として布商いを中心とした雑貨商売を始め、細川家とは幕末・維新期の臨時的な御用で関わったと思われる。慶応4年(1868)から明治2年(1869)まで肥後熊本藩との関わり(御用勤め・扶持頂戴・接待等)を記録した資料、肥後熊本藩士の上洛時の宿割りが具体的にわかる資料等。ほかに身内や知人の遊興費の後始末に苦慮する書状や、御茶屋と思われる店からの請求覚がまとまって残っている。慶応4年(1868)～明治6年(1873)。89点。寄贈。

古文書相談 歴史資料課 ☎ 075-723-4834

友の会事務局から

平成24年度「友の会見学会」を開催しました。去る11月13日(火)、52名の参加を得て、神戸市内の「平清盛ゆかりの地」(真光寺、KOBEDe 清盛 歴史館、須磨寺)を見学しました。雨模様の天気予報でしたが、幸い見学時間中は降ることもなく、見聞を広めていただけたものと思います。

日誌(平成24年9月～11月)

10. 2 (火) 京都学へのいざない講座 第1回
10.20 (土)～11.18 (日)
企画展 世界遺産条約40周年記念「京都の世界遺産」
- 10.23 (火) 京都学へのいざない講座 第2回
10.25 (木)、11. 8 (木)
企画展列品解説
- 10.30 (火) 記念講演会「世界遺産をつくった大工棟梁 中井大和守の仕事」
- 11.10 (土)、11.11 (日)
「本づくりプロジェクト」お茶のセミナー
- 11.13 (火) 友の会見学会
- 11.26 (月) 京都学へのいざない講座 第3回

利用案内

休館日 祝日法に規定する休日、
毎月第2水曜日、資料整理期、
年末年始(12月28日～1月4日)
〔1月～3月の休館日〕
1月1日～4日(年始)、9日(水)、14日(月・祝)
2月11日(月・祝)、13日(水)
3月13日(水)、20日(水・祝)

開館時間 午前9時～午後4時30分

交通 京都市営地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス④、⑧(北8)・北山駅下車
京都バス④⑤、④⑥・前萩町下車

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

発行 京都府立総合資料館 〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4
京都府立総合資料館友の会(振替 01030-2-11991) TEL. 075-723-4831 FAX. 075-791-9466

○本誌に対するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。

再生紙を使用しています。